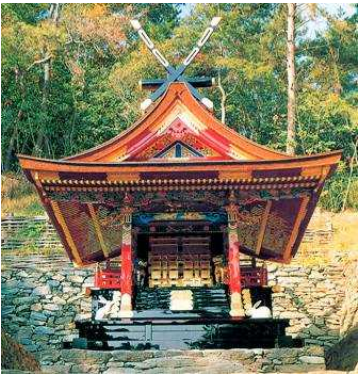
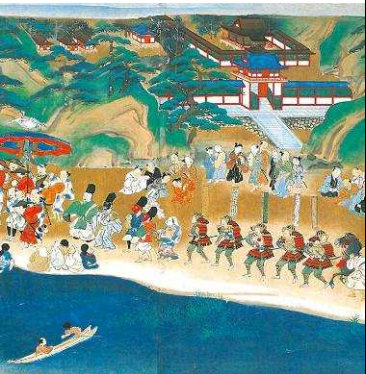
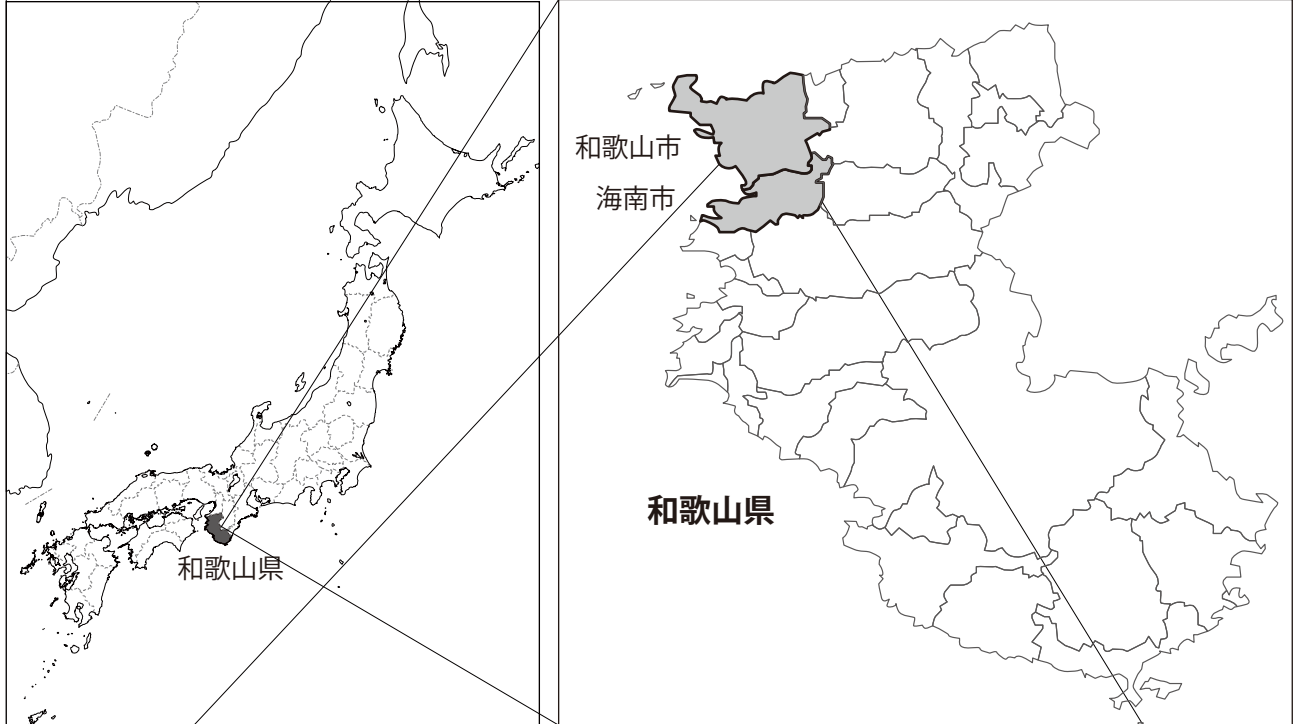


① 申請者	和歌山県（和歌山市・海南市）	② タイプ	地域型 シリアル型 A B C D E
③ タイトル			
ぜっけい ほうこ わ か うら 絶景の宝庫 和歌の浦			
④ ストーリーの概要（200字程度）			
潮が引けば干潟が現れ刻一刻と輝きながら変化し、潮が満ちれば一面の海となり、陽光をうけて古い石橋が影を落とす。入り江を取り巻く山の桜が寺社を彩り、潮入りの庭園を新緑が包み、紅葉の峠越しにみる入り江は碧く、風景にとけこんだ町並みに色鮮やかな祭礼行列が練り歩く。ここ和歌の浦の情景は一時として同じではない。このまま持ち帰りたいと万葉歌人は和歌にうたい、和歌の神様がこの地に宿った。そして数多くの文化芸術を育んできた歴史の厚みを湛え、和歌の浦は今も人々を魅了している。			
 1300 年前に和歌にうたわれた和歌の浦の干潟  和歌の神・玉津島神社  自然と文化が調和した和歌の浦 (東照宮縁起絵巻より和歌祭図)			

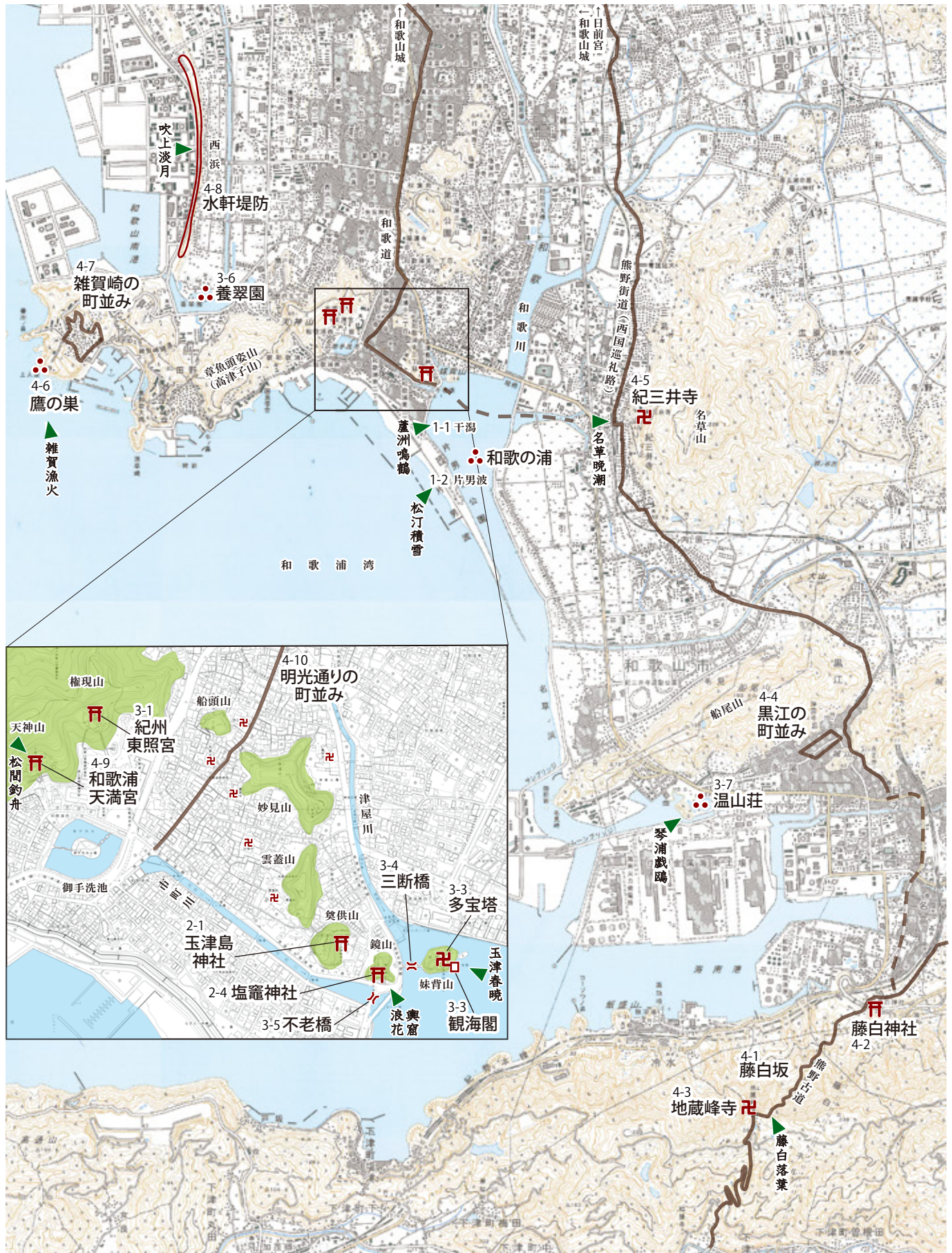
市町村の位置図



構成文化財の位置図

詳細図は次頁

構成文化財の位置図(詳細)



ストーリー

1. 芸術を育んだ絶景 和歌の浦

和歌の浦は、和歌川の河口に広がる干潟を中心に、南は熊野古道の藤白坂から、西は紀伊水道に面する雑賀崎までの、和歌浦湾を取り巻く景勝の地である。万葉の時代にこの思わず持ち帰りたいほどの情景が和歌にうたわれ、和歌の神がまつられ、唯一無二の和歌の聖地となった。その情景が和歌と絵画に融合した和歌浦十景は、潮が満ち干潟から鳥が飛び立つ様、春霞の干潟越しにみる寺社を抱く山並み、紅葉の峠越しに見下ろす波穏やかな入り江など、うたわれ絵になってきた絶景を、今も訪れる人々に教えてくれる。自然と文化が調和した和歌の浦の絶景は、日本人の精神文化の源ともいえる和歌に始まり、いつの時代も人々を魅了し、様々な芸術を育んできた。

2. 和歌の聖地 和歌の浦の誕生

1300年前の奈良時代、聖武天皇は、即位の年という特別な機会に、当時「若の浦」と記されたこの地を訪れた。遠くに名草山を望み、目の前で刻々と変化する干潟の広がり、そのなかで沖に向かって連なる玉津島山のながめに感動し、この地の神・明光浦霊に祈りをささげ、そしてこの景色を末永く守るよう命じた。歌聖・山辺赤人の「若の浦に潮満ちくれば潟を無み 葦辺を指して鶴鳴き渡る」（若の浦に潮が満ちて干潟が見えなくなり、干潟にいた鶴が一斉に飛び立ち、葦のはえる岸辺へ鳴きながら飛んでいく）という、躍動感あふれる情景を見事に描きだした歌が、その時の天皇の感動を表している。

この歌が平安時代、紀貫之により和歌の聖典といわれる『古今和歌集』で改めて取り上げられたことが、「若の浦」が和歌の聖地となる第一歩であった。「若」の浦が転じて「和歌」の浦となり、美しさが衣を通して輝いたという和歌の名人・衣通姫が和歌の神として玉津島にまつられ、和歌の聖地として崇められたのである。古代から中世にかけて、時の関白・大臣までもが、熊野参詣や西国巡礼の道すがら、名高い和歌の浦を観光し、また和歌や物語など様々な文芸作品に取りあげていった。

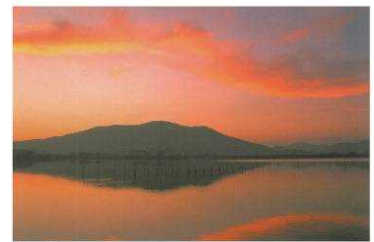
この和歌の浦に象徴された和歌の世界は、玉津島の神をまつり、六義園のような和歌の浦を模した庭園を造ることで、京や江戸にも広がっていった。文化人たちは和歌の浦にあこがれ続けてきたのである。

3. 天下人や藩主もほれこんだ、和歌の浦の絶景

中世末、豊臣秀吉は、紀州攻めの際に古来の景勝・和歌の浦を遊覧し、その名にちなんで北方の岡山に建てた城を和歌山城とし、その城下が和



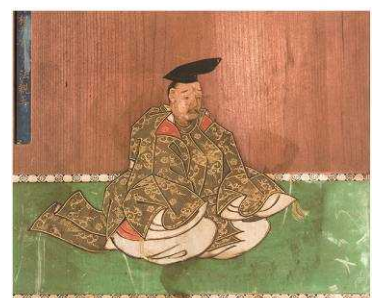
和歌の浦（満潮の干潟と観海閣）



和歌の浦（朝焼けの名草山）



和歌浦十景（名草晩潮）



万葉の歌聖・山辺赤人



妹背山にかけられた三断橋

歌山とよばれるようになった。こうして「和歌」の名は、現在の県名にまで引きつがれ、和歌山の誇りとなっている。

400年前の江戸時代、徳川家康の十男頼宣が和歌山へ入国すると、和歌の浦の北西にそびえる権現山に父家康をまつる東照宮を、干潟に浮かぶ妹背山に母お万の方をしのぶ多宝塔を建てた。そして妹背山に三断橋をかけて観海閣を設け、干潟の移ろいを楽しむ場として民衆に開放した。また東の対岸、紀三井寺からの渡し舟で、西国巡礼の旅人を和歌の浦へと誘った。頼宣が始めた紀州東照宮の例大祭・和歌祭では、和歌の浦を背景に渡御行列が練り歩き、民衆も楽しんだ。名所に民衆が自由に集い楽しむ場が設けられたのは、和歌の浦が始まりである。

また和歌の浦の景勝をいかして、優れた庭園が造られた。紀州藩主随一の文化人・10代藩主徳川治宝が、西の高津子山を借景として造園した養翠園は、江戸の浜離宮と同じく珍しい潮入りの大名庭園である。園内には茶室を設け、和歌の浦をかたどった菓子や茶器もつくられた。南東の琴ノ浦では、近代になって温山荘庭園が築かれた。和歌の浦を見下ろす船尾山を借景とした池泉回遊式の庭園には、皇族や大臣も訪れ、関西を代表する名園となっている。

4. 和歌浦十景にみる、うたわれ絵になる絶景

和歌浦十景は、干潟と玉津島を中心として、様々な方向からうたわれ絵になってきた和歌の浦の風景の広がりを見せてくれる。

南の藤白坂を登れば、北には万葉集にうたわれた黒牛潟、和歌の浦、雑賀崎から、はるか淡路島・四国まで変化に富んだ絶景が広がる。万葉の時代にここで処刑された悲劇の皇子・有間皇子が最後に見たのは、紅葉に彩られた峠越しの和歌の浦の海であった。そして熊野参詣の貴族たちが、都から山道が続く紀伊路で初めて海を望める所として、和歌の浦をながめながら歌会や舞楽を催した。

干潟の東、夕陽をあびて満潮の水面に映える名草山の中腹には、西国三十三所巡礼の第二番札所・紀三井寺がある。かつて俳聖・松尾芭蕉は過ぎゆく春の名残を求めて和歌の浦を訪れた。春、この境内には桜が咲き誇り、西をながめれば春霞の干潟に玉津島の岩山が並ぶ。

和歌の浦一円の鎮守であり、文芸の神をまつる和歌浦天満宮が鎮座する天神山は、和歌の浦の北西、入り江の最も奥にそびえている。色彩豊かな社越しに入り江を見下ろせば、緑濃い松林と石橋の間に釣り舟が見えかくれし、風景の一部のような人々の営みが目に映る。

和歌にうたわれ、和歌の文化を育み、芸術の源泉となった和歌の浦。この地は、うたわれ絵になる絶景の宝庫として人々を魅了し続けている。



関西の日光といわれる紀州東照宮



今にうつけがれる和歌祭（面掛行列）



養翠園の潮入りの池と高津子山



熊野古道の藤白の獅子舞



西国巡礼の桜の名所・紀三井寺



天神山に鎮座する和歌浦天満宮

ストーリーの構成文化財一覧表

番号	文化財の名称	指定等の 状況	ストーリーの中の位置づけ	文化財の 所在地
1	芸術を育んだ絶景 和歌の浦			
1-1	和歌の浦 (干潟)	国名勝	【和歌浦十景「 ろしゅうめいかく 蘆州鳴鶴」】 和歌川の河口に立地する海浜の景勝地。奈良時代に聖武天皇がその景観を讃えて末永く守るよう命じ、江戸時代にも紀州藩初代藩主徳川頼宣が、景観を守るよう命じた。干潟の芦辺に鶴が飛ぶ様は、和歌浦十景の一つである。	和歌山市
1-2	和歌の浦 (片男波)	国名勝	【和歌浦十景「 しょうていせきせつ 松汀積雪」】 和歌の浦の干潟を外海と隔てる砂州は、山辺赤人の和歌にちなみ、片男波とよばれる。片男波の砂州の松林に雪が積もる様は、和歌浦十景の一つとなった。	和歌山市
1-3	和歌浦図関係資料 (和歌浦図屏風等 10 点)	県美術 未指定	和歌の浦は、日本三景と並ぶ名所として、数多くの名所図の画題となった。	和歌山市
1-4	和歌浦十景 関係資料 (明光浦十景図)	未指定	和歌の浦の名所十景を描いた画。江戸時代の和歌の浦出身の絵師・桑山玉洲が、和歌の浦の実際の風景と、万葉集や新古今和歌集でうたわれた情景を見事に融合させて描いた構図は、後に多くの絵画や美術工芸品に写された。	和歌山市
1-5	南紀男山焼 (和歌の浦関係 4 点)	未指定	江戸時代後期に殖産興業として奨励された焼き物。紀州の名所として和歌の浦の景色を描いた器が数多く作られ、各地に配られた。	和歌山市
1-6	駿河屋菓子木型 「和歌の浦」 「紀八景」	未指定	駿河屋は室町時代から現在まで続く菓子司で、徳川頼宣とともに紀州に移り御用達となった。文雅を好んだ紀州藩 10 代藩主徳川治宝は和歌の浦の名所を表した菓子を作らせた。	和歌山市
1-7	紀伊国名所図会 板本	市美術	江戸時代後期の地誌書。特に和歌の浦には多くの頁数をさき、江戸時代の紀州で代表的な名所であったことを示す。	和歌山市

2	和歌の聖地 和歌の浦の誕生			
2-1	わ か うら 和歌の浦 たまつしまじんじや (玉津島神社)	国名勝	【和歌浦十景「玉津春 暁」】① 奈良時代、聖武天皇は和歌浦行幸し、玉津島と干潟のながめに感動してこの景観を守るよう詔 ^{みことり} を発した。玉津島は和歌の聖地として崇められたが、定まった社殿はなく、玉津島の岩山そのものがまつられた。関ヶ原の戦後に入国した浅野幸長 ^{あさのよしなが} により社殿が再興され、徳川頼宣 ^{よりのぶ} により本格的に整備された。	和歌山市
2-2	玉津島神社 さんじゅうろっかせんがく 三十六歌仙額	市美術	徳川頼宣 ^{よりのぶ} が、和歌の祭神にちなみ三十六歌仙額を奉納した。近世初期に、和歌の浦の天満宮・玉津島神社・東照宮の三社にそれぞれ奉納された三十六歌仙額は、紀州の文化芸術を語る上で重要な要素となっている。	和歌山市
2-3	玉津島神社 ほうのう わ か 奉納和歌	市文書	玉津島神社の祭神・衣通姫 ^{そとおりひめ} は上代の絶世の美女で和歌の名人として知られ、住吉明神、天満天神（江戸時代には柿本人麻呂 ^{かきのもとひとまる} ）と並び和歌三神の一柱とされた。京の公家や歴代の藩主から多くの奉納和歌がある。	和歌山市
2-4	わ か うら 和歌の浦 しおがまじんじや (塩竈神社)	国名勝	【和歌浦十景「興 窟波華」】 玉津島山の一つ鏡山で、加羅岩とよばれた奇岩の岩山に波が打ち寄せる様は、和歌浦十景の一つ。波で削られた洞窟 ^{どうくつ} に、浜降り神事で紀ノ川上流から渡った神輿 ^{みこし} がおかれたため、興の窟といわれ、潮の満ち干を司 ^{つかさど} る神をまつる。	和歌山市
3	天下人や藩主もほれこんだ、和歌の浦の絶景			
3-1	きしゅうとうしやうぐう 紀州東照宮	国重建造物	徳川頼宣 ^{よりのぶ} が、父家康 ^{いえやす} をまつる社 ^{やしろ} として、地主神 ^{じぬしかみ} でもある天満宮の隣に造営した。天神山 ^{てんじんやま} に天満宮、権現山 ^{ごんげんやま} に東照宮が並び建つ様は、和歌の浦の代表的な景観の一つ。	和歌山市
3-2	わ か まつり 和歌 祭 ・ 和歌祭祭礼所用具・ 和歌祭仮面群 めんかけぎやうれつ 面掛行列所用品	未指定 県美術	紀州東照宮の例大祭で、東照宮創建時から伝わる渡御行列 ^{とぎぎぎやうれつ} は、江戸時代の芸能風俗を今に伝える時代絵巻である。万葉の山辺赤人 ^{やまべのあかひと} の和歌にちなみ、和歌の浦を象徴する要素である鶴の意匠 ^{いしよう} が随所にみられる。	和歌山市

(様式 3 - 1)

3-3	わ か うら 和歌の浦 (いもせやま・ 妹背山・ かいぜんいんたほうとう 海禅院多宝塔)	国名勝 市建造物	【和歌浦十景「玉津春 暁」】② 玉津島の6つの岩山の先頭にある妹背山には、徳川頼宣の母養珠院（お万の方）が家康33 回忌に経石を埋納した。徳川頼宣はその上に多宝塔を建て、また三断橋と観海閣を設け民衆に開放した。観海閣は、干潟に張り出した懸造りの建物で、干潟の移ろいを楽しむことができる。名草山から西に春霞の干潟を望み、玉津島の岩山が並ぶ様は、和歌浦十景の一つ。	和歌山市
3-4	わ か うら 和歌の浦 (さんだんきょう 三断橋)	国名勝	徳川頼宣が、干潟に浮かぶ妹背山に自由に渡ることができるよう設置した。中国の西湖堤に倣い、石堤の3か所に石造橋を設ける。水辺の名所として多くの地誌・紀行文などに描かれた。	和歌山市
3-5	わ か うら 和歌の浦 (ふろうばし 不老橋)	国名勝 市建造物	江戸時代後期、徳川治宝は和歌祭の御成道として鏡山から片男波に向けて入り江の入口に不老橋をかけ整備した。入り江はその名残として市町川となっている。	和歌山市
3-6	ようすいえん 養翠園	国名勝	江戸時代後期、徳川治宝が造営した和歌の浦の景観をいかした池泉回遊式の大名庭園。和歌の浦の高津子山を借景とし、中国の西湖を模したという潮入の池が特徴である。	和歌山市
3-7	こと うらおんざんそう 琴ノ浦温山荘 ・琴ノ浦温山荘 庭園	国重建造物 国名勝	【和歌浦十景「琴浦戯鷗」】 大正初期、大阪の実業家・新田長次郎により築かれた関西随一の大庭園。琴ノ浦と船尾山の景色をいかした池泉回遊式の庭と、海を望む浜座敷が特色である。	海南市
3-8	わ か や ま じょう 和歌山城	国史跡 国重建造物 国名勝	中世末、豊臣秀吉が、和歌の浦の北方の岡山に築いた城を、和歌の浦の名にちなんで名付けた。江戸時代は紀州徳川家の居城であった。	和歌山市
3-9	ちょうほうじ 長保寺 ・長保寺の林叢	国宝建造物 県天然記念物	江戸時代初め、徳川頼宣により紀州徳川家の菩提寺とされた。古の風情を残す壮大な森に抱かれ、境内と参道は桜 400 本と牡丹1200 本の花の名所である。	海南市
3-10	わ か や ま はんしゅ 和歌山藩主 とくがわけぼしよ 徳川家墓所	国史跡	長保寺にある紀州徳川家代々の墓所。境内からつづく深い森の奥に、石造りの荘厳な墓が立ち並ぶ。	海南市

4	和歌浦十景にみる、うたわれ絵になる絶景			
4-1	くまのさんけいみち き い じ 熊野参詣道紀伊路 ふじしろざか (藤白坂)	国史跡	【和歌浦十景「藤白落葉」】① 晩秋の藤白坂から、紅葉の峠並み越しに見る和歌の浦の景色は、和歌浦十景の一つ。	海南市
4-2	くまのさんけいみち き い じ 熊野参詣道紀伊路 ふじしろおうじ (藤白王子跡) ・ 藤白神社 ・ 藤白の獅子舞	国史跡 県建造物 県無形民俗	【和歌浦十景「藤白落葉」】② 藤白坂の麓の藤白神社は、熊野古道の九十九王子でも別格の五体王子の一つ藤白王子跡に建つ。都から山道が続く紀伊路で初めて海を望める所であり、熊野参詣の貴族たちが和歌の浦をながめながら歌会や舞楽を催した。その時に披露された神楽が起源という優美な獅子舞が伝わる。	海南市
4-3	くまのさんけいみち き い じ 熊野参詣道紀伊路 ふじしろとうげおうじ (藤代塔下王子跡) ・ 地藏峰寺	国史跡 国重建造物	【和歌浦十景「藤白落葉」】③ 熊野古道の塔下王子跡に建つ、本尊が大きな石造りの地藏菩薩の寺。藤白坂の上にあり、寺の裏の「御所の芝」は江戸時代の人々が和歌の浦を望む地として絶賛した。	海南市
4-4	くろえ 黒江の町並み	未指定 国登録	万葉集に黒牛瀉とうたわれた入り江に、近世に漆器職人の町が築かれた。和歌の浦の船尾山に抱かれるように、平行四辺形の土地に連子格子の町屋が斜めに建ち並び、独特な町並みをなす。地名の元となった黒い牛のような岩があったという中言神社では名水が湧く。	海南市
4-5	ごくういん 護国院 (紀三井寺)	国重建造物 県建造物	【和歌浦十景「名草晩潮」】 和歌浦湾の東にそびえる名草山の中腹にある西国三十三所の二番札所で、和歌の浦をながめる絶好の場所として多くの参詣者が訪れた。満潮時に夕陽に映える名草山は、和歌浦十景の一つである。	和歌山市
4-6	たか す 鷹の巣	県天然記念物	【和歌浦十景「雑賀漁火」】① 鷹が巣を作るような断崖絶壁であるため「鷹の巣」とよばれ、荒々しい結晶片岩が露頭する絶景となっている。雑賀崎の断崖と漁師の漁の景色は和歌浦十景に数えられる。	和歌山市

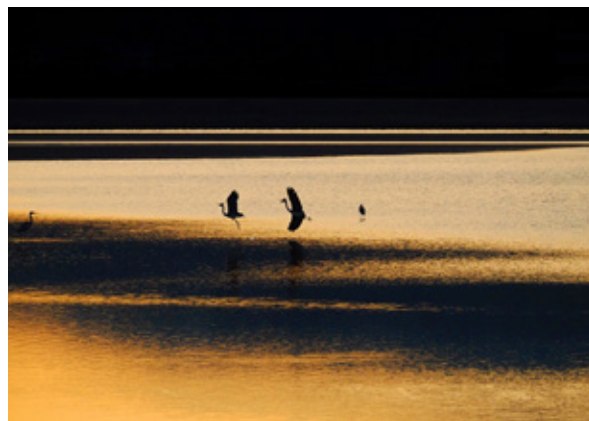
(様式 3 - 1)

4-7	さいかさき 雑賀崎の町並み	未指定	【和歌浦十景「 ^{さいかいいさりび} 雑賀漁火」】② 万葉集に雑賀の ^{あま} 海人の ^{いさりび} 漁火とうたわれた地では、断崖に張り付くように建つ町並みに漁師町の風情を見ることができ、潮が変化する旧正月を節目とする漁民の風習が残る。	和歌山市
4-8	すいけんていぼう 水軒堤防	県史跡	【和歌浦十景「 ^{ふきあげたんげつ} 吹上淡月」】 ^{ふきあげ} 吹上の砂丘は、現在では市街地の下に埋もれてしまったが、江戸時代後期に築かれた海浜の石造堤防である水軒堤防が南北にのびる様子に、かつての海岸砂丘の面影を見ることができる。	和歌山市
4-9	わ かうらてんまじんじや 和歌浦天満神社 (わ かうらてんまんぐう 和歌浦天満宮)	国重建造物	【和歌浦十景「 ^{しょうかんちようしゅう} 松間釣舟」】 入り江の最奥の ^{てんじんやま} 天神山に鎮座する、和歌浦一円の地主神をまつる社で、 ^{あさのよしなが} 浅野幸長が再興した。天神山から干潟を見下ろし松林の間に釣舟が見えかくれする様は、和歌浦十景に数えられる。	和歌山市
4-10	めいこうどお 明光通りの町並み	未指定 国登録	江戸時代から東照宮・天満宮の参道前に和歌の浦の廻船問屋 ^{かいせんどんや} などが軒を連ね、 ^{しょうむてんのう} 聖武天皇が和歌浦行幸の際にこの地を明光浦とよんだ歴史にちなみ名付けられた。	和歌山市

構成文化財の写真一覧 ①



1-1 和歌の浦の夜明け(名草山、船尾山、藤白峠)



1-1 干潟から飛び立つ鳥



1-2 和歌の浦夕景(満潮の干潟、片男波、高津子山)



1-2 早朝の干潟と水鳥(奥に片男波の松林)



1-3 和歌浦図「巖島和歌浦図屏風」



1-4 和歌浦十景【参考】
「明光浦十景冊」玉津春暁(桑山玉洲筆)



1-3 和歌浦図「東照宮縁起絵巻 第五巻」(住吉如慶筆)



1-4 和歌浦十景
「明光浦十景図」玉津春暁(岡本緑邨筆)

構成文化財の写真一覧 ②



1-4 和歌浦十景「玉津春暁」の景色



1-5 南紀男山焼「玉津春暁」



1-5 南紀男山焼「紀三井寺」(名草晩潮)



1-6 駿河屋菓子木型「和歌の浦」



1-6 駿河屋落雁「和歌の浦」(妹背山・観海閣・多宝塔・三断桥)



1-7 紀伊国名所図会



1-7 紀伊国名所図会 (紀三井寺より和歌の浦の干潟・片男波・玉津島を望む)

※『和歌浦の風景-カラーでよむ「紀伊国名所図会」-』(ニュース和歌山発行、額田雅裕解説、芝田浩子彩色)より



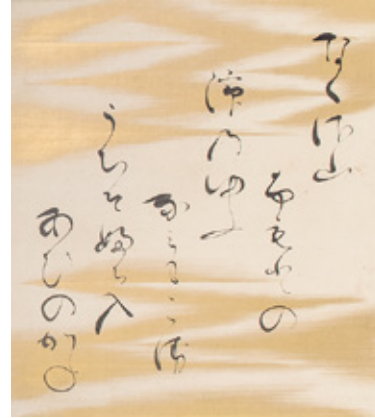
2-1 玉津島神社 本殿



2-2 玉津島神社 三十六歌仙額「山辺赤人」「小野小町」(狩野興甫筆)

構成文化財の写真一覧 ③

(様式3-2)



名草山 ふもとの浜の 夕波も
声打ち添ふる 入相の鐘
(紀三井寺の晩鐘が鳴る、
それに従う様に麓の浜の
夕波の音が聞えてくることよ)

2-3 玉津島神社 奉納和歌「吹上八景手鑑」名草山晩鐘(冷泉為村筆)



2-4 塩竈神社近景 鏡山と不老橋



2-1 塩竈神社 奥の窟



3-1 紀州東照宮



3-1 紀州東照宮 拝殿正面



3-2 和歌祭仮面群 面掛行列所用品(東照宮所蔵)



3-2 和歌祭(面掛行列)

構成文化財の写真一覧 ④



3-3 妹背山 海禅院多宝塔



3-3 妹背山夕景 干潟と観海閣



3-4 妹背山 霧の三断橋



3-4 鳥と干潟と三断橋



3-5 不老橋 降りしきる雪



3-7 琴ノ浦温山荘



3-6 養翠園 潮入りの池と高津子山



3-6 養翠園 茶室「養翠亭」

構成文化財の写真一覧 ⑤



3-8 和歌山城 天守閣



3-8 和歌山城 西之丸庭園(紅葉溪庭園)と御橋廊下



3-9 長保寺 本堂と多宝塔



3-10 和歌山藩主徳川家墓所 初代徳川頼宣の墓



4-2 藤白神社



4-2 藤白の獅子舞



4-3 地藏峰寺 本堂



4-3 地藏峰寺 石造地藏菩薩坐像

構成文化財の写真一覧 ⑥

(様式3-2)



4-1 熊野参詣道紀伊路(藤白坂)



4-4 黒江の町並み



4-5 護国院(紀三井寺) 楼門



4-5 護国院(紀三井寺) 多宝塔



4-6 鷹の巣



4-7 雑賀崎の町並みと漁火



4-9 和歌浦天満神社(天満宮) 御手洗池と天神山



4-9 和歌浦天満神社(天満宮) 石段と楼門

構成文化財の写真一覧 ⑦

(様式 3 - 2)



4-8 水軒堤防(古写真)



4-8 水軒堤防と西浜遠景



4-8 水軒堤防(堤防の石積み)



4-10 明光通りの町並み

日本遺産を通じた地域活性化計画

(1) 将来像 (ビジョン)						
“持ち帰りたい”と和歌として詠まれ、これまで人々を魅了してきた景観をもつ和歌の浦は、現在、景観条例により景観重点地区として保護されています。 また、その和歌を含む万葉集の世界を学べる万葉館を拠点に、市民団体による和歌の浦短歌賞、和歌の浦万葉ウォーク、観月短歌会や百人一首かるた大会などが催され年中人々が集い、この景観を活かした日本の伝統文化の一つである和歌の世界を堪能することができます。 さらに近年、セーリング、カヌー、ボート等の海洋レクリエーションが盛んであり、自然景観を活かした和歌の浦バイマラソン等のイベントも開催されています。 将来、この和歌の浦は、現在の景観が保全されつつ、和歌の浦地域が持つ景観をはじめとした自然・歴史・文化などの地域資源を活かし、文化活動やスポーツに親しむ質の高い生活を享受しているとともに、それらの資源を源泉とした個性と多様性のある地域づくりが活発に展開され、地域で独自の個性が光り輝くことによって、市民はこの地域に深い愛着を持って暮らしています。 またこの地域資源と新たな賑わいが共に調和することで、市民のみならず観光客も自発的に魅力を情報発信し、それにより広く周知され、国内外の観光客等が多く訪れています。さらにその観光客が安全で快適に滞在し、地域の人々と交流し、様々な体験を行うことができることで、観光が産業化し、域外から稼ぐ力が強化され、地域が自立的に魅力を高めるために活動しています。						
(2) 地域活性化のための取組の概要						
①和歌の浦日本遺産活用推進協議会と民間事業者等と連携し、地域一体となった魅力的なまちづくりを行う。 該当地域の住民等の意見を反映した多面的な事業を展開し、また、県、市町村の関係各課及び各観光協会等の民間団体が緊密に連携し、マーケティングに沿った誘客の始点で地域に根ざした取組みを推進する。 ②マーケティングに基づく事業の実施を図り、和歌の浦ブランドの価値向上を図る。 事業実施には、詳細かつ正確な情報が必要であることから、様々な角度からマーケティング調査を実施する。また、構成文化財の歴史的位置付けの調査研究を進めることにより、個々の文化財の付加価値を高め、和歌の浦の全体としてのブランドイメージの向上を目指す。 ③人材育成による地域のおもてなし力の向上を図る。 各観光協会等と連携し、和歌の浦の魅力を発信するための日本遺産ガイドの養成、勉強会を通じて市民意識の醸成によるおもてなし力の向上、さらには活動の中核的な人材を育成することにより、地域での活動を活性化させる。 ④メディアやSNSを活用した普及啓発を促進をする。 メディアの情報発信力を活用し、シンポジウムやプレスツアーにより和歌の浦の魅力を国内外に発信し、また、ウォークイベント等への参加者からSNSによる情報発信との相乗効果により誘客促進に努める。 ⑤快適に滞在できる受入体制の強化による来訪者の満足度を高める。 多言語化した案内板の整備や和歌の浦地域の景観を直に体感する体験プログラムの開発などにより、来訪者が快適に長時間滞留できる環境を整えることで、満足度を向上させリピーターを増やす。 ⑥日本遺産及びそれにかかる事業を国内外に積極的な発信を行う。 (公社)和歌山県観光連盟等と連携して、多言語の日本遺産ホームページを開設し、総合的な情報発信ツールとして活用するとともに、和歌の浦地域の景観のみならず上記の取組みに訴求するであろうターゲットを絞り、国内外に対し積極的に情報発信を行うことで誘客促進を図る。						
(3) 自立的・継続的取組						
人材育成により地域が独自で活動できる体制を整え、地元観光協会やまちづくり団体と役割分担を行い、マーケティングに基づく有料ガイド、イベント、体験型観光を推進することで、稼げる観光により収益性をあげ、持続性、自立性のある取組を実施する。						
(4) 実施体制						
・協議会の名称： 和歌の浦日本遺産活用推進協議会（仮称） ・構成団体： 和歌山県（観光振興課・教育委員会文化遺産課）、和歌山市（観光課・商工振興課・和歌山城整備企画課・教育委員会文化振興課）、海南市（産業振興課・教育委員会生涯学習課）、（公社）和歌山県観光連盟、（一社）和歌山市観光協会、海南市観光協会、（公財）和歌山市文化スポーツ振興財団						
(5) 地域活性化計画における目標と期待される効果		定量的評価：	別紙①のとおり			
期待される効果：	地域住民の和歌の浦に対する理解をさらに醸成し、地域住民からの自立的な情報発信や活動の活発化により、継続的な取組みが期待でき、また、マーケットニーズ、トレンドの収集及び地域資源のブラッシュアップ等を図り、受入体制を強化することによって、国内外の観光客の満足度が向上し、結果観光客の増加が見込まれる。					
(6) 日本遺産魅力発信推進事業		別紙②のとおり				
補助金額：	平成29年度：	41,832千円	平成30年度：	23,275千円	平成31年度：	18,200千円
(7) その他事業		別紙③のとおり				

（５）地域活性化計画における目標と期待される効果

設定目標Ⅰ：	日本遺産を活用した集客・活性化			
計画評価指標：	観光客入込み数（具体的な指標は次のとおり）			
具体的な指標：	和歌山市・海南市の観光客総数			
目標値：	平成 28 年度	7,826,167 人	⇒	令和 4 年度 8,209,400 人
設定根拠：	平成27年度～平成28年度の伸び率0.8%に対し、毎年度、対前年度比で0.8%の伸び率の達成を設定。			
設定目標Ⅱ：	日本遺産を核としたコミュニティの再生・活性化			
計画評価指標：	地域の文化に誇りを感じる住民の割合（具体的な指標は次のとおり）			
具体的な指標：	市政調査『観光地としての魅力（市民の郷土（文化財等）への愛着）』の割合			
目標値：	平成 28 年度	15 %	⇒	令和 4 年度 18 %
設定根拠：	平成28年度を基準として、毎年0.5%増加を設定			
設定目標Ⅲ：	日本遺産の関する取組を行うための持続可能な体制の維持・確立			
計画評価指標：	日本遺産関連で開発された商品・サービス数（具体的な指標は次のとおり）			
具体的な指標：	地元事業者等で開発された日本遺産関連商品作成数			
目標値：	平成 28 年度	0 件	⇒	令和 4 年度 10 件
設定根拠：	補助金がある平成31年までに5件の新商品・サービスの開発を行い、その後の3年間でさらに5件の開発を想定			
設定目標Ⅳ：				
計画評価指標：				
具体的な指標：				
目標値：	平成 年度	件	⇒	平成 年度 件
設定根拠：				
設定目標Ⅴ：				
計画評価指標：				
具体的な指標：				
目標値：	平成 年度		⇒	平成 年度
設定根拠：				

様式4（別紙②）

（6）日本遺産魅力発信推進事業

事業①：日本遺産PRホームページ及びガイドブック制作			
事業区分：	情報発信	事業期間：	平成 29 年度 ～ 平成 30 年度
補助金額：	平成29年度：11,145千円	平成30年度：5,940千円	平成31年度：0千円
(積算)	HP4,488千円、ガイドブック6,690千円	5,940千円×1回＝5,940千円	
事業概要：	国内外の観光客の目線で、誘客目標に対して最大の効果を発揮できるようなホームページを作成する。また、コンテンツを充実させ、多言語化だけでなく和歌の浦の魅力が一見して分かるような視覚的内容も充実させる。		
評価指標区分：	ホームページ閲覧数（PV数）		(具体的な指標は次のとおり)
具体的な指標：	日本遺産ホームページへのアクセス数		
目標値：	平成 29 年度	10,000 PV	⇒ 令和 4 年度 15,000 PV
事業②：日本遺産PR動画の製作			
事業区分：	情報発信	事業期間：	平成 29 年度 ～ 平成 29 年度
補助金額：	平成29年度：5,184千円	平成30年度：0千円	平成31年度：0千円
(積算)	5,184千円×1回＝5,184千円		
事業概要：	ホームページだけでは補えない和歌の浦の魅力的な部分をPR動画（3分）を作成し、ホームページにリンクさせる事によってホームページのアクセス数及びYouTubeでの再生回数を増やし誘客に努める。		
評価指標区分：	コンテンツダウンロード数（掲載HPや動画共有サイトでの再生回数等）		(具体的な指標は次のとおり)
具体的な指標：	YouTubeでの再生回数		
目標値：	平成 30 年度	1,000 回	⇒ 令和 4 年度 1,500 回
事業③：ロゴマーク及びキャッチコピーの作成			
事業区分：	情報発信	事業期間：	平成 29 年度 ～ 平成 29 年度
補助金額：	平成29年度：795千円	平成30年度：0千円	平成31年度：0千円
(積算)	795千円×1回＝795千円		
事業概要：	ロゴマーク及びキャッチコピーにより日本遺産の様々なプロモーションに統一的に使用し、訴求力を高めていく。		
評価指標区分：	ホームページ閲覧数（PV数）		(具体的な指標は次のとおり)
具体的な指標：	日本遺産ホームページへのアクセス数		
目標値：	平成 29 年度	10,000 PV	⇒ 令和 4 年度 15,000 PV
事業④：日本遺産ガイド養成研修会			
事業区分：	人材育成	事業期間：	平成 29 年度 ～ 平成 30 年度
補助金額：	平成29年度：148千円	平成30年度：591千円	平成31年度：0千円
(積算)	148千円/4回	591千円/4回	
事業概要：	和歌の浦の観光資源に関する豊富な知識を有し、観光客や地域住民に対して日本遺産のストーリーを紹介するとともに、構成文化財やその他の観光スポットを巡りながら和歌の浦の魅力を伝えることができる人材を養成する。		
評価指標区分：	コーディネーター等育成講座修了者による活動件数		(具体的な指標は次のとおり)
具体的な指標：	日本遺産ガイドからの実績報告		
目標値：	平成 29 年度	10 回	⇒ 令和 4 年度 60 回

事業⑤：日本遺産シンポジウム			
事業区分：	普及啓発	事業期間：	平成 29 年度 ～ 平成 29 年度
補助金額：	平成29年度：3,925千円	平成30年度：0千円	平成31年度：0千円
(積算)	3,925千円×1回=3,925千円		
事業概要：	和歌の浦の歴史や、和歌の浦にある観光資源の魅力について専門家から講演を行った後、関係者でパネルディスカッションを行い、市民の日本遺産への理解醸成を図り、日本遺産を県内外にPRするための活動意欲を高める。		
評価指標区分：	日本遺産の認知度	(具体的な指標は次のとおり)	
具体的な指標：	市政調査『観光地としての魅力（市民の郷土(文化財等)への愛着)』の割合		
目標値：	平成 28 年度	15 %	⇒ 令和 4 年度 18 %
事業⑥：プレスツアー			
事業区分：	普及啓発	事業期間：	平成 30 年度 ～ 平成 31 年度
補助金額：	平成29年度：0千円	平成30年度：2,100千円	平成31年度：4,000千円
(積算)		2100千円（1回）×1回=2100千円	4,000千円（1回）×1回=4,000千円
事業概要：	メディア及び一般を対象としてプレス・モニターツアーを実施し、和歌の浦について広くPRする。		
評価指標区分：	日本遺産の認知度	(具体的な指標は次のとおり)	
具体的な指標：	パンフレット及び雑誌等への掲載		
目標値：	平成 30 年度	5 回	⇒ 令和 4 年度 15 回
事業⑦：ウォークイベント			
事業区分：	普及啓発	事業期間：	平成 29 年度 ～ 平成 29 年度
補助金額：	平成29年度：800千円	平成30年度：0千円	平成31年度：0千円
(積算)	800千円×1回=800千円		
事業概要：	一般の方向けに、和歌の浦の観光資源を巡るためのウォークイベントを開催し、参加者からのSNS等での発信により、和歌の浦の知名度アップに努める。		
評価指標区分：	その他	(具体的な指標は次のとおり)	
具体的な指標：	和歌の浦来訪者からのSNSでの発信数		
目標値：	平成 29 年度	20 回	⇒ 令和 4 年度 100 回
事業⑧：菓子木型の複製品を活用した江戸時代のお菓子作り体験			
事業区分：	普及啓発	事業期間：	平成 29 年度 ～ 平成 30 年度
補助金額：	平成29年度：1,404千円	平成30年度：100千円	平成31年度：0千円
(積算)	1,404千円×1回=1,404千円	20千円×5回=100千円	
事業概要：	一般の方の体験用に、和歌の浦を題材にした菓子木型や製品の複製品を製作し、和歌の浦をテーマにした江戸時代の菓子作りイベントを実施する。		
評価指標区分：	日本遺産の認知度	(具体的な指標は次のとおり)	
具体的な指標：	メディアへの掲載数		
目標値：	平成 29 年度	0 回	⇒ 令和 4 年度 30 回

事業⑨：日本遺産コンテンツ開発			
事業区分：	普及啓発	事業期間：	平成 29 年度 ～ 平成 30 年度
補助金額：	平成29年度：2,993千円	平成30年度：0千円	平成31年度：0千円
(積算)	コンテンツ開発2,993千円		
事業概要：	和歌の浦の地域資源を活かした体験型観光の体験メニュー情報の集約や周遊ルート、まち歩きコースの開発を行う。		
評価指標区分：	日本遺産に関する商品開発数	(具体的な指標は次のとおり)	
具体的な指標：	協議会で開発された日本遺産関連商品作成数		
目標値：	平成 29 年度 1 件	⇒	令和 4 年度 10 件
事業⑩：日本遺産情報発信拠点整備			
事業区分：	公開活用のための整備	事業期間：	平成 30 年度 ～ 平成 30 年度
補助金額：	平成29年度：0千円	平成30年度：3,436千円	平成31年度：0千円
(積算)		整備費用3,436千円	
事業概要：	和歌の浦が人々に愛されるようになった背景や地勢・風土に触れ、ストーリーがわかりやすく理解できるような日本遺産情報発信拠点を整備する。		
評価指標区分：	施設への入込み数	(具体的な指標は次のとおり)	
具体的な指標：	日本遺産ブースへの来場者数		
目標値：	平成 30 年度 4,000 人	⇒	令和 4 年度 11,000 人
事業⑪：和歌の浦ライトアップ			
事業区分：	公開活用のための整備	事業期間：	平成 30 年度 ～ 平成 30 年度
補助金額：	平成29年度：0千円	平成30年度：7,992千円	平成31年度：0千円
(積算)		整備費用7,992千円	
事業概要：	滞在時間の延長により宿泊につなげるため、構成文化財をライトアップし、夜間観光を促進する。		
評価指標区分：	その他	(具体的な指標は次のとおり)	
具体的な指標：	和歌山市・海南市の延べ観光宿泊客数		
目標値：	平成 29 年度 850,000 人	⇒	令和 4 年度 900,000 人
事業⑫：地域活性化人材育成事業			
事業区分：	人材育成	事業期間：	平成 29 年度 ～ 平成 30 年度
補助金額：	平成29年度：153千円	平成30年度：400千円	平成31年度：0千円
(積算)	153千円×1回＝153千円	80千円×5回＝400千円	
事業概要：	日本遺産による地域振興を図るため、研修会等の実施により、日本遺産の情報発信や普及啓発に携わる人材を育成する。		
評価指標区分：	コーディネーター等育成講座修了者による活動件数	(具体的な指標は次のとおり)	
具体的な指標：	研修受講者による活動件数		
目標値：	平成 29 年度 5 件	⇒	令和 4 年度 50 件

事業⑬：		案内サイン等の作成・設置				
事業区分：		公開活用のための整備		事業期間：	平成 29 年度 ～ 平成 29 年度	
補助金額：		平成29年度： 15,252千円		平成30年度： 0千円		平成31年度： 0千円
(積算)		案内板16枚、解説板12枚				
事業概要：		案内サイン等を作成・設置することにより、日本遺産の構成文化財等への周遊を容易にし、来訪者が快適に長時間滞在できる環境を整えることで、満足度を向上させリピーターを増やす。				
評価指標区分：		その他			(具体的な指標は次のとおり)	
具体的な指標：		和歌山市・海南市の延べ観光宿泊客数				
目標値：		平成 29 年度 850,000 件		⇒	令和 4 年度 900,000 件	
事業⑭：		メディア活用による情報発信				
事業区分：		情報発信		事業期間：	平成 29 年度 ～ 平成 31 年度	
補助金額：		平成29年度： 2,600千円		平成30年度： 4,000千円		平成31年度： 2,000千円
(積算)		制作及び掲載一式 2,600千円		制作及び掲載一式 4,000千円		制作及び掲載一式 2,000千円
事業概要：		各種メディアを通じてターゲットを絞ったプロモーションの実施により、観光誘客を図る。				
評価指標区分：		宿泊者数			(具体的な指標は次のとおり)	
具体的な指標：		和歌山市・海南市の延べ観光宿泊客数				
目標値：		平成 29 年度 850,000 件		⇒	令和 4 年度 900,000 件	
事業⑮：		関西国際空港を拠点とした情報発信				
事業区分：		情報発信		事業期間：	平成 30 年度 ～ 平成 30 年度	
補助金額：		平成29年度： 0千円		平成30年度： 3,456千円		平成31年度： 0千円
(積算)				一式3,456千円		
事業概要：		関西国際空港に到着したインバウンド等にWEBや映像を活用しPRを行う。				
評価指標区分：		宿泊者数			(具体的な指標は次のとおり)	
具体的な指標：		和歌山市・海南市の延べ観光宿泊客数				
目標値：		平成 29 年度 850,000 件		⇒	令和 4 年度 900,000 件	
事業⑯：						
事業区分：				事業期間：	平成 年度 ～ 平成 年度	
補助金額：		平成29年度： 0千円		平成30年度： 0千円		平成31年度： 0千円
(積算)						
事業概要：						
評価指標区分：					(具体的な指標は次のとおり)	
具体的な指標：						
目標値：		平成 年度 件		⇒	令和 年度 件	

（ 7 ） その他事業

事業①：	歴史活き活き！史跡等総合活用整備事業			
機関・ 団体：	文化庁	：	（具体的な機関）	事業期間：平成 27 年度 ～ 平成 年度
事業概要：	不老橋の保存修理など、名称和歌の浦の整備計画の策定及び環境整備の実施			
事業②：	観光用アプリケーションソフトを活用した伝統産業活性化事業（地方創生推進交付金）			
機関・ 団体：	文化庁以外の省庁	：	（具体的な機関）	事業期間：平成 28 年度 ～ 平成 30 年度
事業概要：	観光客誘導を目的としたアプリの開発・管理し、伝統産業の活性化やPRの機会を拡大する			
事業③：	和歌の浦まちづくり事業			
機関・ 団体：	市町村	：	（具体的な機関）	事業期間：平成 28 年度 ～ 平成 年度
事業概要：	歴史まちづくり法に基づく「歴史的風致維持向上計画」の策定			
事業④：	和歌祭開催交付金事業（和歌祭保存会）			
機関・ 団体：	市町村	：	（具体的な機関）	事業期間：平成 27 年度 ～ 平成 年度
事業概要：	和歌祭の開催により観光客の誘致を図る			
事業⑤：	さくら祭補助金事業（紀三井寺観光協会）			
機関・ 団体：	市町村	：	（具体的な機関）	事業期間：平成 27 年度 ～ 平成 年度
事業概要：	さくらの名所である紀三井寺・新和歌の浦のさくら祭に観光客の誘致を図る			
事業⑥：	観光事業補助金事業（特定非営利活動法人和歌の浦万葉薪能の会）			
機関・ 団体：	市町村	：	（具体的な機関）	事業期間：平成 27 年度 ～ 平成 年度
事業概要：	片男波公園で行う万葉薪能により観光客の誘致を図る			
事業⑦：				
機関・ 団体：	（リストから選択し てください。）	：	（具体的な機関）	事業期間：平成 年度 ～ 平成 年度
事業概要：				
事業⑧：				
機関・ 団体：	（リストから選択し てください。）	：	（具体的な機関）	事業期間：平成 年度 ～ 平成 年度
事業概要：				
事業⑨：				
機関・ 団体：	（リストから選択し てください。）	：	（具体的な機関）	事業期間：平成 年度 ～ 平成 年度
事業概要：				
事業⑩：				
機関・ 団体：	（リストから選択し てください。）	：	（具体的な機関）	事業期間：平成 年度 ～ 平成 年度
事業概要：				